

Neues in Nara

Nr.63

2018年4月20日



グリム童話から

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

1. 奈良日独協会・平成30年度年次総会、及びなかじまゆたかさんの講演会

日時：5月13日(日)13：30～14：30

場所：大安寺催事棟

総会終了後、同寺「獅子吼殿」で午後3時から約1時間の予定で会員の童話絵本作家なかじまゆたかさんの講演が行われます。会員の皆様万障お繰り合わせの上ご出席願います。尚、平成29年度の会費個人2000円、法人1口4000円の納入手続きを頂きますよう、よろしく願います(同封の総会と講演会の案内参照)。

2. 第19回シュタムティッシュ

日時：6月3日(日)15時より

場所：大安寺催事棟

話題提供：会員の土井通靖さんから「NAMEとなまえ」と題して話題提供頂きます。

講師のプロフィール：奈良出身、ドイツに約18年滞在、会員の土井ギーゼラさんのご主人。

参加お申込：林副会長まで電話又はメールで

(090-8168-4549, hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)。

尚、事前連絡無くても、当日お時間空きましたら、どうぞお出で下さい。

3. ムジークフェストなら2018

今年で7回目を迎える同音楽祭は、5月7日から6月3日の間に奈良各地で繰り広げられる。大安寺でも5月15, 19及び20日の3日間各種催しが開かれます(ご不明の点、大安寺にご照会願います)。

●行事報告

1. 第18回シュタムティッシュ

2月4日(日)15時より大安寺催事棟で、会員の土井ギーゼラさんから「ドイツ語圏の義務教育の学校における外国語授業で使用される教授法・学習方法の現況」と題して話題提供頂きました。ドイツの義務教育での教授法と学習の方法について日本の状況との比較を交えて、詳細なお話が進められた。ドイツでは、各種ゲームをとりいれて生徒のより自由な発想を促す工夫がなされているなど、日本の教育現場にも参考になるお話でした。



(裏面の記事もご覧ください)

●会員だより

中西ひとみさんから

„Kunst und Natur – Meine Zeit im Lohengrinhaus in Pirna“

私とドイツとの関わりは、小学校の時に弾き始めたバッハのピアノ曲との出会いが始まりです。以来、ドイツ音楽の深淵に魅せられてきました。現在は、リヒャルト・ワーグナーを研究しています。

幸運にも、2013年と2017年にドレスデン東方のピルナ市にあるワーグナーミュージアム(ローエン格林ハウス)に研究滞在させていただきました。ドレスデン宮廷指揮者であったワーグナーが、1846年夏、『ローエン格林』の作曲に取り組んだ際に住んだ家が、現在ワーグナーミュージアムとして利用されています。ワーグナー直筆の作曲スケッチ(コピー)などが展示され、静かに流れる音楽を聴きながらワーグナーの息吹を共にゆったりと感じることができます。対照的に、通りを隔てて建つ新ミュージアムは、ハイテクを駆使した来訪者参加型ミュージアムです。

ピルナ市は、エルベ川を中心とする両対岸を2つの橋が繋いでいます。南側には、ベネチア画家のカナレットによって描かれた紋章と時計が印象的な市庁舎やエレガントなカフェが立ち並び、城塞から見ると愛らしいおとぎの国のようなです。一方ワーグナーの縁の地のある北側は、チェコとの国境に聳え立つドイツ屈指の高山、エルベ砂岩地帯「ザクセンスイス」への玄関口です。ミュージアムから徒歩で約30分の美しい溪谷沿いのリーバートルや、巨大な岩山が連なる奇景のザクセンスイスは、ワーグナーや多くのロマン派詩人・画家も訪れた場所です。

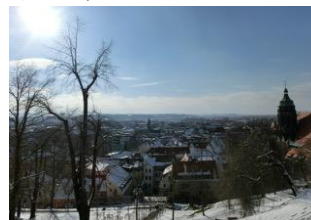
この自然豊かなピルナでの滞在中を通して、芸術と自然が融合する地、それこそがドイツなのだと感じることができました。



ローエン格林ハウス



ゼンパーオペラ (ドレスデン)



ピルナ市

●新入会員

小山泰子さんと安森航平さん(奈良市)が入会されました。

●奈良大学企画展「Märchenhaftes Deutschland – おとぎの国ドイツ」

昨年の12月中旬から今年の3月にかけて上記展示会が、会員の横山香先生の主催で同大学の図書館で開催され、当会からも会員有志が展示会を訪問した(前ページ左上の写真、同展示会から)。

●「天理大学まほろばエコロジー講座」
天理大学准教授 中祢勝美

この講座は、地域の人々に環境について学ぶ機会を提供し、産官学民協同による「エコ・シティ天理」を目指そうと、2017年度から始まった新しい事業です。6回目となる今回の講座は、1月19日(金)に天理駅南団体待合所で行われました。テーマは「天大生が見てきたドイツの環境都市フライブルク」で、参加者は約40名。冒頭、中祢が「異文化実習」担当者という立場から、この授業の目的や主なプログラム、さらにフライブルクの町の歴史や特徴について説明した後、昨年度の実習に参加した4名の学生が、環境に配慮した町づくりのアイデアや「ソーシャル・エコロジー」のコンセプトを掲げるヴォーバーン(Vauban)地区でのフィールドワークの体験を、写真を交えて報告しました。当協会には、講座を後援していただいただけでなく、少なからぬ会員の方にお越しいただき、大変心強く感じました。この日は、実習でチューターを務めてくれたフライブルク教育大の女子学生2名も留学先の愛知県から駆けつけてくれたのですが、環境問題に高い関心を持っておられる参加者から次々に繰り出される質問に対して、真摯に答えようとしている彼女たちの姿が印象的でした。お楽しみ抽選会でも盛り上がり、閉会後も歓談が続く、和やかで意義深い集まりになりました。



講座のチラシ



学生による報告



終了後の全体写真

●ドイツ「リンテルン・ギムナジウム」との交流

奈良県立法隆寺国際高等学校 校長 森本俊雄

2017年7月27日から8月13日まで、ドイツ Gymnasium Ernestinum Rinteln 派遣に本校生徒15人と引率教員2人が参加しました。この交流は、前年の2016年7月にドイツ総領事館、奈良県教育委員会よりドイツの高校が奈良県の高校との交流を希望していると連絡が入り、翌年1月に本校がリンテルン・ギムナジウムの生徒を受け入れたのが始まりです。

ドイツの言語や文化、生活習慣について殆ど知識のない生徒の派遣ということで、特に出発前の事前指導の充実を図りました。スイス出身の本校留学生によるドイツ語のレッスンや、奈良日独協会から2回本校に来ていただき、ドイツ文化の紹介・ドイツ語会話の指導をしていただきました。また、大阪ドイツ総領事館の職員の方に来て頂き、ドイツの生活や社会について講義もしていただきました。参加生徒にとっては、有意義な学びの機会となり、初めてのドイツ研修の準備を一層進めることができました。

実際のドイツ派遣では、生徒は言語や文化の違いに戸惑うこともありましたが、現地校の先生、生徒、またホストファミリーにもあたたかくサポートしていただき、最後は別れを惜しみながら、リンテルンを発ちました。ドイツ人と日本人、母国語は違いますが、英語を介して意思疎通を図り、互いに交流を深めました。現地ではホームステイや授業体験だけでなく、ハンブルグ、ハノーバー、ベルリンなどの主要都市を訪れ、ドイツの歴史と文化の理解を深めることができました。何より、リンテルン・ギムナジウムの創立200周年の年に、祝賀とともに姉妹校協定の締結をすることができました。今年9月にはリンテルン・ギムナジウムの生徒・先生方の2回目の受け入れを予定しています。

今後、両校の交流をさらに深め、日独友好の架け橋となっていく決意です。今後も、奈良日独協会様やドイツ総領事館の御支援を受けながら、一層交流を深めていきたいと考えています。



ハンブルグ市内で、ドイツ人生徒と



学校に掲げられた両国の国旗



姉妹校締結を報じた地元新聞